

NEWS

病院ニュース

2007年7月 第10号

1面 ●病院機能評価 Ver5.0に認定
●患者さんと共に歩む病院をめざして 病院長 河野 陽一

2面 ●新病棟、来年5月オープン
●現病棟の改善整備を計画中

3面 ●看護師・助産師募集！
●<薬割部から>お薬を安心して飲んでいただくために
●Mini News

4面 ●<FREE TALK>これからの附属病院の経営 病院長 河野 陽一
●トピックス「麻疹から学ぶ」
●<亥鼻むかし・昔>①「亥鼻」と「猪鼻」

主な内容



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>



撮影：早坂 卓

また審査には、「書類審査」と「訪問審査」があり、特に「訪問審査」では、評価機構の審査官が病院にやってきて、関係者であれば無作為に質問し、誰もがそれ的確に答えられなければならないという厳しさでした。

受審の動きはすでに全国に広がっており、当院も約一年間をかけて数々の院内改革を行い平成19年2月に受審、今回の成果を得ることができました。

これにより、専門的な第三者機関の認定を受けた医療機関として、患者の方々やそのご家族から当院に対する信頼感も一層高まることとなります。病院側としては、医師、看護師をはじめ職員が一丸となって、安全・安心、快適な医療、施設、患者サービスを提供するため、より一層の努力が求められております。

千葉大学医学部附属病院は、「社会的に求められている安全で質の高い医療を患者に提供するための基本条件」に関する日本医療機能評価機構の審査で合格点を獲得。さる4月23日付けで、病院機能評価(Ver.5.0)の「認定証」を受領しました。

この審査は、平成15年6月厚生労働省より「臨床研修病院は、日本医療機能評価機構などによる評価を受け、その結果を公表するよう」との指示に基づく

ものです。

審査項目は、「第1領域・病院組織の運営と地域における役割」「第2領域・患者の権利と安全確保の体制」「第3領域・療養環境と患者サービス」「第4領域・医療提供の組織と運営」「第5領域・医療の質と安全のためのケアプロセス」「第6領域・病院運営管理の合理性」「第7領域・精神科に特有な病院機能」に区分され、579ものチェックポイントがあります。

「安全で質の高い医療機関」を証明 「病院機能評価Ver.5.0」に認定



重要な医療ネットワークの構築

▶ 特定機能病院にとって、医療ネットワーク構築の重要性は、いくら強調しても強調し過ぎることではないほど。呼吸器内科では、患者さんの病態に応じた高度先進医療を実践することで、生命予後の延長とQOL(生存の質)の向上に貢献しているが、具体的には患者さんの紹介、入院、治療、退院、その後の治療などは、関連医療機関とのネットワークのなかで展開されている。

▶ ネットワークといっても、その規模は疾患ごとに異なり、肺高血圧症や肺移植では東日本という広がりを持ち、肺がん、間質性肺炎、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などでは千葉県が主体である。

▶ このような連携の要点は、退院後どのようにすれば患者さんや家族のQOLをよく保てるか、また医療機関同士が必要な情報を共有できるかである。過去に、退院が困難な事例もあったが、地域医療連携部ができ、適切に対応してくれることで状況は改善している。千葉県ではハード、ソフトともに医療資源は必ずしも十分ではなく、分布にも大きな偏りがあり、今後の改善に努めていきたい。

(呼吸器内科科長・栗山喬之)

皆さんと共に歩む 病院をめざして

病院長 河野陽一



大学病院は、一般の病院で行われている医療に加え、新しい診断法や治療法を研究し開発すること、さらに次世代を担う優れた医師、医療従事者を育成していく使命を負っています。

医療改革の一環で「国立大学法人」として歩む今日、千葉大学医学部附属病院といたしまして、自主自立を基本理念に競争原理の導入や、経営体制の透明性を確立する一方、何よりも患者の皆さまとご家族に満足いただける質の高い医療の提供をめざし、日々努力を重ねております。

平成15年度から始めた電子カルテの導入、16年度スタートの診療科の再編成、そして今年度中に完成予定の新病棟の建設も、大学病院の役割も果たしつつ時代の要請にこたえていく一環であります。

特に、今日の医療機関に求められていることは、質の高い医療技術の提供にとどまらず、それぞれの患者さんの悩み、苦しみをわがものとして病気に立ち向かうことでもあります。

私ども千葉大学医学部附属病院は「患者の皆さんと共に歩む病院」をめざしており、本紙につきましても、医師・看護師をはじめとした病院関係者と患者さんとそのご家族とのコミュニケーション紙とすべく発行するものです。

ぜひご覧いただき、ご意見、ご要望、ご提案などがございましたら、お聞かせください。よろしくお願いいたします。

新病棟、来年5月オープン



目標は「患者さんの望む診療体制」

入院患者の方々が望む新しい診療体制づくりを目標に、新病棟の建設工事が既存病棟東側に急ピッチで進行中。鉄筋コンクリート11階建て、延べ床面積2万794㎡、ベッド数387床で、ことし9月には完成、来年5月正式にオープンします。

新病棟は、療養環境、細心の医療体制、優れた人材育成などの面で、次のような特色を持っています。

患者さんのための療養環境の改善・整備

- ・患者さんの居住性やプライバシーを確保するため、病床を個室・4床室に構成
- ・差額病室にシャワー、トイレを設置
- ・インフォームドコンセントのための専用面会室の設置
- ・コミュニケーションスペースとしてのデイルームの設置



先端医療のための診療体制の改善・整備

- ・臓器移植、遺伝子治療等の先端医療に対応できる病棟配置
- ・感染症防止と高度医療を集中管理する感染病棟の再配置
- ・特殊病棟（BCR）の再配置
- ・屋上に救急ヘリポートを設置

優れた医療人の育成

- ・カンファレンス室等の教育研究スペースの整備、拡充
- ・ベッドサイドの十分な教育スペースの確保
- ・教育の高度化を図るため、電子カルテなどの医療情報ネットワークシステムの充実



新病棟と連携、世界最高レベルの医療拠点に！

●現病棟の改修整備を計画

新病棟とは別に、現病棟の改修・整備にも近い将来着手する予定です。現在の千葉大学医学部附属病院は、昭和52年12月竣工、昭和53年4月に開業し、28年余りを経過。施設や機能の老朽化が目立ち、診療、教育、研究といった大学病院の目的を達成するには十分ではありません。

このため、新病棟の建設を急ぐ一方、現病棟や母子センター棟の改修、新しい外来診療棟の建設、中央診療棟、外来ホール棟、外来診療棟の改修を行うなど、新しい視点に立ったプロジェクトが現在進行中です。

これが実現すれば、入院患者の方々のアメニティー（快適さ）の均一化、調和が図れます。また教育、臨床研究に関する施設などについても、国際的に第一級レベルに達します。

【既存病棟・母子センター棟 改修整備計画】

- ▼年次計画▲
 - ・平成20～21年度：母子センター棟の改修（5240㎡/80床）
 - ・平成21～22年度：既存病棟の改修（1万3660㎡/368床）

▼既存病棟・母子センター棟改修の特色▲

- ・患者療養環境を向上（居住性やプライバシーの確保）させるため、病床を個室・4床室に再構成する。
- ・差額病室にシャワー、トイレを設置するとともに、インフォームドコンセントのための専用面会室を整備する。
- ・既存病棟には、主に外科系診療科を配置し、4階を集中治療フロアとしてICU、CCU、及び日帰り手術（D・S）を設置する。

▼その他の整備計画▲

- ・平成23年度以降：外来棟及び中央診療棟の増改築

用語解説



- ▶ BCR (bio clean room) / 無菌室
- ▶ ICU (intensive care unit) / 重症患者を収容して、最も効果的かつ集約的な治療を行うための病室。酸素 Tent や人工呼吸器などのほか、観察用の各種のモニターや記録装置を備え、医師・看護師のチームにより常時診療・看護が行われる。集中治療室。
- ▶ CCU (coronary-care unit) / 重症心臓病患者の救命を目的とした特殊・集約的な治療室。
- ▶ D・S (day surgery) / 手術当日に来院してもらい、術後数時間経過をみて問題が無ければ帰宅可能。

mini news

初診患者が開設以来1千人を突破!

●和漢診療科から

現代医学的な診断治療と併行して和漢薬治療を行うことにより、両方の長所を引き出し、短所を補い合うことが可能で、「和漢診療科」は西洋医学と和漢医療の融合をめざし、取り組んでいます。

2005年10月17日に千葉県の大学・公立病院で最初の和漢診療科が開設されて、約1年半が経ちましたが、2007年3月に和漢診療科の初診患者さんが1000人を突破しました。内訳をみると、北は北海道から南は九州まで、広範囲にわたっています。

多くの患者さんに当科が支持されているのを知り、このご期待に応えるべく教授以下スタッフ一同、一層診療に励んでまいります。

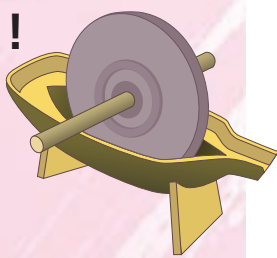
〈当科受診方法〉

当科では、患者さん一人ひとりに十分

な診療時間を確保するため、完全予約制をとっています。現在も多くの方に予約いただいていることや再来の患者さんも同時に増加しているため、初診は約2カ月待ちとなっています。大変ご迷惑をおかけしていますが、ご理解のほどお願いいたします。

受診を希望される方は、簡単な主訴・病状および受診不都合な日程を書いた手紙を下記までFAXまたは郵便(80円切手を貼った返信用の封筒を同封)にてお申し込みください。折り返しご連絡いたします。

〒260-8670 千葉市中央区玄鼻 1-8-1
千葉大学大学院医学研究院和漢診療学講座予約係
fax043(226)2985



千葉大学医学部附属病院では、2008年5月の新病棟オープン

看護師・助産師募集!

を控え、「7人の患者さんに1人の看護師体制」の実現をめざして、左記のとおり看護師および助産師を募集します。

- 応募資格/平成20年3月卒業見込みで、看護師・助産師免許取得見込みのある方、またはすでに免許を取得されている方
- 求人数/約150名
- 採用予定日/平成20年4月1日
- 就職説明会
- 〈本院説明会・見学会〉
 - ・第1回/平成19年8月6日(月) 10日(金)
 - ・第2回/平成19年8月20日(月) 24日(金)

〈インターンシップ〉
実際の看護を体験してみませんか。
・第1回/平成19年8月20日(月) 24日(金)
・第2回/平成19年9月3日(月) 7日(金)

※ご希望の方は①お名前②学校名③学年④説明会の参加希望日⑤連絡先をご記入のうえ開始日の7日前までにメールでお申し込みください。なお、遠方の方には宿泊のお世話もいたします。

Mail:kango@office.chiba-u.jp
お問い合わせ/総務課人事係
☎043(222)7171(内線6020)または看護部副看護部長室 ☎043(222)7171(内線051-9)
<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/recruit.html>

役所やデパートにも普及している救命機器

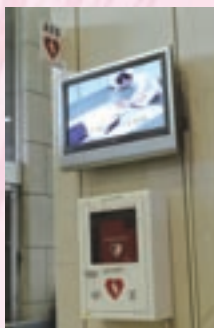
●AEDって何ですか?

AEDは、日本語で自動体外式除細動器といいます。AEDを使用した心肺蘇生法の実施は、突然な心停止から生還するために、大変重要な役割を果たします。その理由は、突然な心停止を起こす患者さんの多くに、心室細動という命に関わる不整脈があります。この状態を正常な脈に戻すた

めに、最も効果のあるのが除細動器を早期に使用することだからです。

千葉大学病院では、一人でも多くの患者さんを救命したいという願いから、病院内にAEDを多数設置すると同時に、すべての職員が心肺蘇生法の講習を受講しています。

近年、多くのデパートや公共機関にもAEDが設置されています。AEDの使用は、医療従事者だけでなく、一般の方も消防署が行っている数時間の簡単な訓練で使い方を習得できます。ぜひ、心肺蘇生法を習得してください。あなたのちょっとした勇気で、大切な命を救えるかもしれません。



健診や相談など多彩な催し

●看護週間の取り組み

毎年全国の看護師は、ナイチンゲールの誕生日である5月12日を「看護の日」と位置づけ、さまざまな取り組みを行っています。当院でも、毎年看護相談や掲示板などでPRし、患者さんにも参加していただいています。

今年は、「メタボリックシンドローム」をテーマに、血圧・体脂肪・腹囲測定と看護相談の実施、ICUスタッフによる一次救命処置の指導と体験等行いました。

介護用品の展示もあり、参加された約80名の方々は興味深そうに見学していました。会場では「こんな相談にも乗ってくれるんですね」や「看護師は病棟だけで働いているのかと思った」などの言葉をいただきました。

入院、外来の患者さんに憩いのひとときを

●院内コンサート

入院や外来の患者の皆さんに、憩いのひとときをお届けするため千葉大学病院では、年に3、4回の「院内コンサート」を外来ホールで開いています。

クラシックおよびセミクラシックを中心に合唱、歌曲、合奏、独奏など季節ごとに趣向を凝らしたプログラムが好評。時には琴の演奏もあります。

さる7月24日の「サマーコンサート」では、ショパンの『ノクターン』をはじめ、『エリーゼのために』や独唱の『四季の歌』



などの名曲を約1時間演奏、美しい旋律が会場を埋めた方々をひととき夢の世界にいざないました。

*ボランティアでピアノの演奏をいただいている方、随時募集しています。ご応募は地域医療連携部 電話/043(226)2632まで。

〈薬剤部から〉

お薬を安心して飲んでいただくために

◆薬剤師がくわしく説明します
当院の薬剤師は、外来の患者さんに対しては病院一階のお薬窓口で、また入院



患者さんに対しては、ベッドサイドに向いてお薬の説明をしています。

◆飲み方、効能、副作用の情報も

お薬は、病状に合わせて変わります。薬剤師は、お薬を安心して飲んでいただけるよう、その飲み方、効能、副作用などの情報を提供しています。

説明には、写真入りのお薬情報シートやパンフレットなどを使い、できるだけ分かりやすくできるよう工夫しています。もし、他の病院から出たお薬、薬局で買って飲まれているお薬や健康食品などがある場合は、飲み合わせが大丈夫か、同じお薬が重複していないかを確認することが必要ですので、必ずお知らせください。

◆正しく使われていることを確認
薬剤師は、医師、看護師と連携

◆入院される際は、お薬などを持参ください

薬剤師は、患者さんが入院される際、それまでのようなお薬を飲まれていたか、また現在飲まれているかをお聞きします。入院中にお薬を安全に使うためには、入院前に飲んでいて、入院時に持参されたお薬の情報はとて重要ですよ。入院の際は、ぜひ薬局からもらったお薬情報シート、お薬手帳などを持参ください。

F R E E フリートーク〈これからの大学病院の経営〉 T A L K



病院長

河野 陽一

経営システムの改革、大胆に進めて

基本は「診療」「教育」「研究」

今年4月より病院長を拝命しました。大学病院はいま、運営の理念を見直さなければならぬ大きな変動期を迎えています。その一つは国立大学法人化であり、もう一つは卒後臨床研修の必修化です。大学附属病院は(1)学生および研修医に対する臨床医学教育(2)高度先進医療の研究・開発(3)特定機能病院としての高度医療の提供(4)地域医療における中核病院としての「母船的役割」といった機能を担っています。

これらの附属病院の特性・役割は、直接病院の収益に結びつくものではありませんが、時代の要請は、収益性をも求めています。これには、機能の効率化を含めた経営体制の改善、診療体制の再編などにより、課題は解決できるものと考えています。

今年、病院の基本的な役割や安全性、機能を専門機関の「日本医療機能評価機構」がチェックする「病院機能評価Ver.5.0」に認定されました。これは、高度で安心して受けられる医療体制であることが証明されたわけで、患者さんにとっても朗報といえるのではないのでしょうか。また、先端医療の開発のため、現在建設中の新病棟に「未来開拓センター」の開設も計画しています。

医師、看護師の確保、育成も使命

もう一つの役割として、「医師と看護師の確保」があります。医師の確保は、当病

院のみで解決できる問題ではなく、千葉県地域医療への視点から、各自治体や地域病院との協力体制を築くことが大切です。

看護師の確保も、すでに私も「看護師確保対策室」を設置していますが、さらに卒後研修の充実と合わせ、総合医療教育研修センターがより緊密にかかわることも必要でしょう。

千葉大学附属病院の理念は「患者さんと共に歩む病院」です。幸い千葉大学病院には、豊かな自然環境があります。病気を抱えた患者さんが、緑に囲まれた病室で安心して療養生活を送れるよう、高度な医療と心のこもった接遇、安らぎの環境を提供していきたいと願っています。

自転車で行診する叔父を見て

当病院の前身は明治7年、千葉、登戸、寒川地区の住民有志が資金を出し合い、地域医療の拠点として設立した「共立病院」です。私はその精神を受け継ぎ、よりよい医療を地域社会に提供することが使命と考えています。

また、私が医師を志したのも、高校生の頃、親戚に小児科医の叔父がいて、自転車で飛び乗っては地域住民の往診に駆け回っていた姿に、尊いものを感じたことがきっかけでした。どれほど組織や施設が大きくなるうと、やはり基本は「地域の人々の病気をその人の身になって治すこと」とあると肝に銘じ、これからの病院経営に取り組み決意しております。

トピックス 「麻疹流行から学ぶ」 2回接種で予防

麻疹は子供の病気。日本は感染症が少ないきれいな国。この2つの幻想を打ち砕いたのが、今年の麻疹流行ではないかと思えます。今年の流行は20歳代前半が中心で、小児患者数は例年とほとんど変わりません。その理由として、①この世代はワクチン接種が幼児期の1回のみで抗体獲得が不十分、②自然罹患が減ったことで免疫増強効果が減少した—の2点が考えられます。海外ではワクチンを2回接種しており、日本でも2006年から乳幼児に2回接種し、さらに対象年齢の拡大を検討しています。それ以外の方は、次の流行に備えて抗体価を測定し、低下していればワクチン接種をしておくこと、この機会に麻疹以外の疾患(水ぼうそう、おたふく風邪、風疹)についてもワクチン接種歴を確認しておくことをお勧めします。

あとがき 千葉大学病院ニュースの発刊から4年目、第10号を迎えたのを機に、紙面を一新しました。これまでは病院スタッフが手作業で編集に当たっていましたが、この号から千葉日报社に編集をお手伝い頂いています。私達がお知らせしたい情報より、皆さんが知りたい情報を判りやすく、見やすくお伝えすることを何より大切にしていきます。医療は、私たちスタッフと患者さんとの共同作業です。私たちが一方的に情報をお伝えするのではなく、患者の皆さんが必要な情報を手に入れて、それをもとにご自分の病気やそれに対する治療を私たちと一緒に考え、進めていくことが、良い結果への近道だと思います。皆さんがそれぞれにお持ちの疑問に、細かくお答えすることは紙面の都合上できませんが、千葉大学病院をご理解いただくことで、病気で悩みの皆さんのお役に立てることを願っています。(山本修一、副病院長・広報委員長・眼科科長)

亥鼻 むかし・音 「亥鼻」と「猪鼻」① 千葉市の「いのはな」という地名を聞くと、「亥鼻」の他に「猪鼻」の字を思い浮かべる人も多いのではないだろうか。1973年の住居表示施行の時、「いのはな」は「亥鼻1、2、3丁目」となったが、松戸市の本土寺に伝わる過去帳や、鎌倉幕府について書かれた吾妻鏡などには、「井花」「猪鼻」「湯花」などと記されている。 いろいろな説があるが、亥鼻1丁目にある千葉市立郷土博物館は、源頼朝の鎌倉幕府創設に尽力した千葉常胤の父・千葉常重によって築城された猪鼻城があったところに建てられたといわれている。周辺は、桜の名所として知られる公園として整備されているが、その一角に「猪鼻城跡」と書かれた石碑がある。 亥鼻1、2、3丁目となるに際して、亀岡町、矢作町、市場町と町の境界が変更されている。ちなみに、千葉大学医学部の運動場北半分は亀井町



お茶の水の坂の途中にある「猪鼻城跡」の石碑

域、現在の附属病院敷地は矢作町域であったが、亥鼻1丁目に編入された。「いのはな」の語源は、千葉市の平野部に突き出した台地の形によると考えられるが、「井花」「湯花」という書き方に関連して、台地の下の湧水に「お茶の水伝説」が残っている。(妙見信仰研究家・宮原さつき)